

[水田作部門]

## 2. 水稲乾田直播栽培の入水前に使用できる茎葉処理除草剤の特徴

[要約]

クリンチャーバスME液剤、ノミニー液剤、ワイドアタックSC、ハードパンチDFの4剤は、いずれも稲が減収する危険性は小さく、ノビエの殺草効果も高いが、アゼガヤ、クサネム、イボクサには効果が大きく異なるため、各草種の発生に応じて使い分ける。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 作物・経営研究室

[連絡先]電話086-955-0275

[分類] 情報

---

[背景・ねらい]

本県南部に広く普及している乾田直播栽培は、水稲の省力・低コスト栽培法であるが、入水前の雑草防除が課題であり、さらなる省力化や効果の安定化が望まれている。そこで、入水前の使用に農薬登録があり、ノビエに対して高い効果が期待される茎葉処理除草剤4種類について、雑草に対する効果や稲への薬害程度を明らかにし、効果的な使用のための知見を得る。

[成果の内容・特徴]

1. クリンチャーバスME液剤は、5葉期のノビエと6葉期のアゼガヤに対して高い効果が期待できる（表1）。
2. ノミニー液剤は、5葉期のノビエ、草丈10cmのクサネム、草丈30cmのイボクサに対して高い効果が期待できる（表1）。
3. ワイドアタックSCは、5葉期のノビエに対して高い効果が期待できる。ノビエを完全に枯殺するまでに要する日数は他の3剤と比べてやや長い（表1）。
4. ハードパンチDFは、5葉期のノビエと草丈10cmのクサネムに対して高い効果が期待できる。クサネムの枯殺に要する日数はノミニー液剤と比べてやや短い（表1）。
5. ノミニー液剤、ワイドアタックSC、ハードパンチDFは稲に薬害が発生する可能性があるが、いずれも一時的な症状で稲の生育は回復し、減収する危険性は小さい（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 水稲乾田直播栽培の入水2～8日前、稲3.5～4.0葉期に処理した結果である。

[具体的データ]

表1 各雑草に対する効果<sup>z</sup>と殺草にかかる日数<sup>y</sup>の目安

除草剤	使用量 <sup>x</sup> (/10a)	ノビエ (5葉期)	アゼガヤ (6葉期)	クサネム (10cm)	イボクサ (30cm)
クリンチャーバスME液剤	1000ml	○ 2週間	○ 2週間	×	×
ノミニー液剤	200ml	○ 2週間	×	○ 2週間	○ 3週間
ワイドアタックSC	100ml	○ 3週間	×	×	×
ハードパンチDF	30g	○ 2週間	×	○ 1週間	×

<sup>z</sup> ○:効果あり ×:効果なし～ほとんど効果なし

<sup>y</sup> 薬剤の散布から枯死までの日数

<sup>x</sup> いずれの除草剤も水100Lに溶かして使用

表2 稲(ヒノヒカリ)に対する影響

除草剤	収量 <sup>z</sup>	薬害程度 <sup>y</sup>			観察された薬害症状 <sup>x</sup>
		2011年	2012年	2013年	
クリンチャーバスME液剤	100	無	無	無	無
ノミニー液剤	103	無	無	微	草丈短、茎数少、 葉の退色・褐変・黄化
ワイドアタックSC	99	微	無	無	草丈短、茎数少、 葉の退色
ハードパンチDF	102	微	無	無	草丈短、茎数少、 葉の退色・褐変

<sup>z</sup> 2011～2013年の平均を、クリンチャーバスME液剤の値を100とした相対値として示す

<sup>y</sup> 無:薬害症状なし 微:一時的な薬害症状がみられたが、減収には至らず

<sup>x</sup> 処理後10～20日頃を中心に観察されたが、いずれの症状も30日後までには回復した



図1 各除草剤で殺草効果が大きく異なったアゼガヤ(左)、クサネム(中央)、イボクサ(右)

[その他]

研究課題名：大規模経営に対応した効率的稲作システムの確立

予算区分：県単

研究期間：2011～2013年度

研究担当者：渡邊丈洋